



## 本日はよくお参り下さいました

秋晴れの候、皆さまいかがお過ごしですか。なかなか涼しくならない日々は、お彼岸まで続くのでしょうか。さて、8月24日に祭礼の反省会が行われ、お祭りにご協力頂いた方々が集まり、互いの労をねぎらいました。また8月30日には、鶴岡八幡宮にて「天下大祓（てんかおおはらえ）」という行事が開催され、当社からは、禰宜馨幸が祭員としてご奉仕させて頂きました。「天下大祓」の趣旨は、今年5月に今上陛下が御即位されたことにより、毎年11月に行われる「新嘗祭（にいなめさい）」が「大嘗祭（だいじょうさい）」となりますが、この、御一代に一度の大変重いお祭りである「大嘗祭」が、つつがなく行われることを願い、全国の青年神職一同が、県ごとに天下を祓い清めることを目的としたのが「天下大祓」です。神奈川では、鶴岡八幡宮の研修道場において、禊（みそぎ）をし、その後大祓を行い、国民国土が清められました。11月の大嘗祭にも関心をお寄せ頂ければ幸いです。権禰宜 道子



天下大祓当日の禊

## 9月

**1日・15日 月次祭**(つきなみさい)  
皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。



**8日 白露** (はくろ) 「しらつゆ」の意で、この頃、秋気も本格的に加わり、野草に宿るしらつゆが、秋の趣をひとしお感じさせる。

**13日 十五夜** 月の満ち欠けによって、おおよその月日を知り農事を行っていた昔から、農民の間で農耕行事と結びつき、収穫の感謝祭としての意味も持っている行事。

**17日 敬老の日** 多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。

**20日～26日 彼岸** 先祖を敬い、亡くなった人のみたまを偲ぶ期間。

**23日 秋分・彼岸の中の日** 国民の祝日の一つ「秋分の日」。この日は春分と同じく昼と夜の長さがほぼ等しい。しかし春分の日と秋分の日と平均気温を比較してみると秋分の方が10度以上も高くなっている。これは夏の暑さの名残があるからである。台風シーズンでもある。

**23日 秋季皇霊祭** 皇室の大祭。天皇陛下御自ら歴代の天皇・皇后・皇族など、皇祖の神霊をおまつりする儀式。

## 天神さまの豆知識

「万葉の言の葉」  
「葦(あし)」

葦辺ゆく 鴨の羽がひに霜降りて

寒き夕べは 大和し 思ほゆ(志貴皇子)

水辺の葦のそばを泳いでいる鴨の翼にも霜が降り、ひとしお寒さが身に染みるこの夕べは、大和の国がことのほか思われます。(巻一・六十四)

「豊葦原の瑞穂の国」とは、わが国の美称です。晩秋から冬にかけての葦原の情景は、万葉人の

詩情をそそりました。アシはイネ

科の多年草で、根茎を縦横に貼り、

高さ1〜3mになります。発音が

「悪し」と同じであることを嫌い、

その反対の意味の「良し」ヨシに言い換えられています。また日本人の暮らしにも、なじみ深く、生活材、祭事等に広く

使われ、よしずや、すだれ、茅葺き屋根の材料や和楽器の笙やひちりきにも使われます。葦は水辺に群生し、その葦原は

水を浄化し、生き物の住処にもなります。生態系の維持や水質浄化作用がある葦原

を守ることは環境保全にも繋がります。日本神話の中には、ウマシアシカビヒコ

チという神さまが、冒頭に登場します。この神さまは、盛んな勢いで生命が萌え



葦原 (イメージ)

## 今月の言葉

『天の意志は

靈妙である』

節操の固い人物は、自分から進んで幸福など求めないが、天はかえってその心にほれこんで、幸福の窓を開いてくれる。

陰險な人間は、不幸を免れることばかり考えているが、天はかえってその心につけこんで、容赦なく不幸を下す。

天の働きはなんと靈妙なことか。その前にあっては、人間の知恵などまるで歯が立たない。

引用・参考 『決定版 菜根譚』 守屋洋著  
株式会社PHP研究所発行